

第 30 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和 2 年 2 月 3 日（月） 14：00～16：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第 2 大会議室

1. 中長期ロードマップの内容、主旨について

資源エネルギー庁から、中長期ロードマップの内容、主旨について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリ取り出し方法の検討においては、燃料デブリ取り出しに伴い発生する固体廃棄物の保管・管理等も含めて、総合的に検討を進めることが重要である。

2. 試験的取り出し・内部調査の準備状況について

IRID 及び東京電力から、試験的取り出し・内部調査の準備状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 試験的取り出し・内部調査は、国プロの研究開発の成果を用いて実施するが、研究成果と現場作業とのインターフェイス管理等も含めて、東京電力の全体マネジメントの下で着実に進めるべきである。
- 現場作業においては、オペレータが操作を行いながら検討・判断を行うことは非常に難しい。モックアップテストの経験を踏まえた操作の単純化や設計へのフィードバックに加えて、各操作における指標設定の検討等による作業要領の具体化を図ると共に、オペレータに過度な負担とならない体制を構築すべきである。
- 現場の環境を踏まえて作業手順・要領を具体化すること等により、取出し装置のオペレータや放管要員等を含む作業員のリソースを計画的に確保していく事が重要である。

3. 次期研究開発計画について

NDF から、次期研究開発計画について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 東電エンジニアリング或いは国プロ検討に英知事業の開発成果を活用することを念頭にした仕組みの改善や、今後の内部調査結果を受けて開発方針を柔軟に見直すことが可能な仕組みを検討していくことが望ましい。
- ロードマップを念頭に、東電のエンジニアリングと研究開発の関係性を明確にし、短期的な対応に加えて中長期的な取組みも明確化していくことが重要である。

以上